

IX 発表業績一覽

X 研修・学会等

XI 実習生及び見学者受入状況

XII 環境教育資料利用状況

IX 発表業績一覧

1. — 降雨下における大気汚染物質の一挙動 —

齋藤 勝美、大久保栄一*

第35回大気汚染学会（1994年11月、盛岡市）

1985年9月に行った幹線道路（国道7号線）近傍での大気汚染物質の濃度レベルおよび濃度変動に関する調査の際に、降雨による大気汚染物質の濃度低下が観測されたので、その観測結果を紹介するとともに、観測された大気汚染物質の濃度低下を、落下する雨滴による大気汚染物質の吸収（水に対する大気汚染物質の溶解度）の観点から検討した結果を報告した。降雨時に濃度低下が観測された大気汚染物質は SO_2 、 NO_x 、COで、 SO_2 は10ppbから3ppb、 NO_x は100ppbからゼロ、COは1.5ppmから0.5ppmまで濃度低下した。 O_3 は、これらとは逆に濃度上昇が観測された。 O_3 濃度の上昇は、NOの降雨による濃度低下によって O_3 がNOから NO_2 への酸化反応で消費されないためと考えられた。観測された大気汚染物質の濃度低下を水に対する溶解度の観点から検討してみると、溶解度の大きい SO_2 よりも小さい NO_x の方が数十倍濃度低下があり、単に溶解度だけでは説明がつかない。したがって、濃度低下した分が全て雨滴に吸収されているのか、溶解度以外に何が吸収に影響を与えているのか検討する必要がある。

*電気化学計器(株)

2. — 酸性河川に関する調査研究 —

山田 雅春

全国公害研 北海道・東北ブロック連絡会議（1994年10月、新潟市）

3. — 特異性を持つ降水のイオン成分特徴 —

齋藤 勝美

全国公害研 北海道・東北ブロック連絡会議（1994年10月、新潟市）

X 研 修 ・ 学 会 等

1. 研 修

年 月 日	研 修 名	氏 名	研 修 地
6. 6. 23~24	機器分析研修	武 藤 公 二 片 野 登	埼 玉 県
6. 7. 4~8	自動水質分析器研修	片 野 登	東 京 都
6. 7. 20~23	石綿測定技術者研修	高 嶋 司	神 奈 川 県
6. 10. 13~14	食品衛生・環境衛生監視員研修会	児 玉 仁	宮 城 県
6. 11. 7~8	地球環境保全技術研修	湯 川 幸 郎	埼 玉 県
7. 1. 12~14	地球温暖化研究会	斎 藤 勝 美	京 都 府
7. 3. 7~11	環境科学セミナー	鈴 木 雄 二 児 玉 仁	神 奈 川 県

2. 学会出席

年 月 日	学 会 名	氏 名	開 催 地
6. 5. 9	日本珪藻学会	片 野 登	東 京 都
6. 11. 15~17	大気汚染学会	高 嶋 司 斎 藤 勝 美 児 玉 仁	岩 手 県
7. 3. 14~18	水環境学会	片 野 登	広 島 県

3. 講師派遣

年 月 日	派 遣 先	氏 名	場 所
6. 4. 5・10. 7	秋田県消防学校	高 田 照	岩 城 町
7. 1. 17・20	秋田県消防学校	鈴 木 雄 二	岩 城 町
6. 8. 31	八郎湖水質対策連絡協議会研修会	片 野 登	大 瀨 村

Ⅺ 実習生及び見学者受入状況

1. 実習生

年 月 日	実 習 生	人 数
6. 4. 11	秋田大学医学部	5名
5. 30	"	5名
7. 18~29	秋田大学鉱山学部	1名
8. 1~12	"	2名
9. 19	秋田大学医学部	6名
10. 31	"	5名
12. 12	"	5名
7. 1. 17	"	5名
2. 27	"	5名

2. 見学者

年 月 日	見 学 者	人 数
6. 5. 17	ミネソタ州立大学秋田校	35名
6. 24	東北電力㈱秋田火力	20名
7. 22	仁賀保町保健衛生委員会	19名
7. 28	矢島中学校理科研究グループ	22名
10. 29	秋田県私立中学高等学校協会	17名
11. 4	東北緑化㈱	2名
11. 11	湯沢地区衛生委員会	15名

XII 環境教育資料利用状況

年 月 日	資 料 名	利 用 者
6. 9. 28~10. 3	パネル・ビデオ	私立和洋高等学校
10. 2 ~ 3	パネル	秋田県立平成高等学校
10. 13	ビデオ	秋田県生活環境部県民生活課
10. 17~21	パネル	横手保健所
11. 4 ~17	パネル	小坂町町民課

秋田県環境技術センター年報

— 平成 8 年 1 月 —

秋田県環境技術センター

(〒010)

秋田市八橋字下八橋191の18

TEL 0188 (63) 1425

FAX 0188 (63) 1076

キヨコ

印刷 / 秋田協同印刷株式会社
住所 / 秋田市川尻町字大川反233-48

